
夫婦の夜

London

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夫婦の夜

【Nコード】

N8744K

【作者名】

London

【あらすじ】

夫婦の夜は秘密がいっぱい、あ、やだ、そんなとこまで……！（感想・レビュー歓迎します）

「寝よっか」

食事も済み、見てもないテレビを消した時だった。

その一言で睡眠モードに移行した。

寝室に二人で移動する。

仕事で疲れて入るのが億劫なのか、夫はお風呂に入っていない。
ま、いつか。

夏の暑い日なんかは臭くて嫌だけどさ

今日はあまり汗をかいてないのか気にならない。

「電気つけて」

古い一軒家だからドア横スイッチは無い。

彼は闇の中、電気の紐を手探りしている。

ライトがつき、部屋を照らす。

夫がさつさと布団に入る。

シングルをふたりで使ってるので同じ布団に潜り込む。

明日は休みだから夜更かし出来るぜ、と

漫画を読み始める夫。

横になった夫の腕に頭をのせる。

夫側に背中を向ける。

頭いっこぶん下になって足を後ろに回して絡ませるのが
包まれてる感があつていたくお気に入りだ。

さて、お尻を夫にくつつけ…

…違和感。

「…これなに？」

布の感触。

夫は布団の中なのにパンツ（ボクサータイプ）をはいていた。

「だって今日寒いじゃん？ズボンはぬいだからパンツは許してよ」

「やだ〜！何でよく脱いで〜」

なんて奴だ！許せぬ。

私は躊躇わず手でずらしたパンツを足で引っ掛けて下ろす。

僅かに抵抗していたが足元までくるとなすがままだ。

背伸びして彼の足首に引っかかるパンツをひったくる。

「こんなものっ！」

布団のどっかにつくきパンツを追いやる。

改めてお尻をくつつける。

ああ、これこれ。

毛むくじやらであつついコレがないとね〜。

尾てい骨あたりがあつたまっで気持ちいい。

冷たいって呟きは完全無視した。

お尻じゃ飽きたらず手探りであれに触れる。

私、このふにやふにやのが好きなんだよね。

後ろ手でニギニギしながら夫の冷たい足を自分の足であつたためる。

夫は手足の先が冷えやすい。

私、手足の先は温かいけどお尻まわりが冷えやすい。

ふたりは暖を供給しあえる仲なのだ。

ああ、幸せ。

そんな私を尻目に

毎朝、パンツ探すの大変なんだよ

と夫は抗議していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8744k/>

夫婦の夜

2010年11月22日19時20分発行